二松學舍
松苓會報

CONTENTS

P2 松苓会長・前会長挨拶
P3 理事長・学長挨拶
P4 松苓会定期総会
P7 新役員紹介・副会長挨拶
P8 松苓会各支部活動報告
P14 卒業生だより
P15 北から南から
P17 キャリアセンターより
P18 教職支援センターから
P19 松苓会の歩み(5)
P22 教員免許更新講習を終えて
P23 85周年記念事業の概要・松苓日誌抄
P24 『中国学入門』の紹介
P24 寄贈図書・訃報・編集後記　他

No.53
2015年10月1日

会長就任あいさつ

二松學舍松苓会
会長
廣田　克己

総会での就任直後のあいさつで、前会長の敷かれた路線「松苓会改革の推進」と「大学との協調」の継承と発展を誓いました。

会員名簿、内規の整備、支部活動の充実と本部との関係の強化、今後のあり方など問題は山積しています。中でも来年6月12日（日）に実施予定の松苓会創設85周年記念式典は当面の重要課題です。松苓会にとって周年記念事業は、昭和6年の専門学校第1期生卒業と同時に創設して以来、初めてのことです。松苓会の歩みをまとめることはこれからを考えるうえでも避けては通れぬことです。そのため記念誌づくりや名簿整備は松苓会の根幹をなすものと位置づけて、現在全力を挙げて取り組んでいます。しかし、これまでその機会がなかったせいか過去の資料や会員情報が不足しており、まとめるのに苦労しております。お手持ちの松苓会に関する資料や情報の提供をお願いします。

また近年、母校の在学生は4分の3以上を首都圏出身者が占め、年々その傾向は進んでいます。しかも数少ない地方出身者が卒業後は首都圏に吸収されてしまい、地方支部からは若い会員がいないという声が聞こえます。地方の雇用の厳しさは承知していますが、地元の情報が大学に届いていないのです。支部の活動が活発になり、本部とのパイプが太くなれば、その点が少しでも改善されるのではないかと考えています。本部では数年前から支部活動の強化をめざして、大学や父母会の協力を得て支部総会や懇親会を働きかけています。今後もこの取り組みを継続しますので、支部活動への参加をお願いします。

このままの状況が続けば、松苓会創設百周年の頃には支部のいくつかは消滅しているのではないかと思われます。会員数を多く抱える首都圏でも若い会員の参加が少なく、支部活動に苦心しています。平成14年の卒業生からは全員に終身会員になっていただいております。現在は年会費制が廃止され、終身会員制だけですが、平成13年以前の卒業生で終身会員手続きをしていただいているのは1割程度です。

若い会員の活動への参加や終身会員手続きが少ないことは、今後の松苓会の課題でもあります。組織や財政、活動の問題など、今年の総会で承認され、発足する「基本問題検討委員会」はこの問題に取り組みます。

「大学との協調」は徐々に進んでおり、大学はもとより父母会とも交流が始まりました。また、附属中学、高校やその同窓会との交流も考えております。昨年度の附属高校野球部の夏春甲子園大会出場の際の松苓会員の支援はそうしたきっかけにもなり、後押しにもなったと感謝しております。

松苓会にはさまざまな問題が山積しています。どれも大きな問題ですが、神津前会長の下副会長として学んだことを生かして、微力ですが全力で務めます。どうぞよろしくお願いします。

前会長あいさつ

二松學舍松苓会
前会長
神津　賢一郎

二松學舍松苓会会長という大役を2期8年の永きに亘り何とか全うできたのは支えてくださった皆様のお蔭です。感謝して厚くお礼申し上げます。

さて私が会長に就任する前に、会則の役員任期について「但し会長の任期は2期までとする」と改正されました。この背景には執行部体制を変えなければ、という思いがあったからです。この期待を受けての会長就任でした。平成19年です。またこの年は二松學舍創立百三十年という節目の年で、学校法人二松學舍寄附行為が新しく改正され、この寄附行為に則り、役員が選出され新理事長大山徳高先生が就任されました。そして松苓会からも評議員を選出できるようになりました。まさに法人と松苓会は車の両輪として大学発展の為に協力しなければならないということです。ところが協力ではなく対決姿勢の事態が生じてしまい混乱の中、再び会長職2期目をお受けし、支えてくださった皆様のお蔭で正常な状態になり、車の両輪が円滑に動くようになりました。大学では学長の渡辺和則先生が松苓会支部総会などに積極的に出席してくださり、松苓会を支援してくださいました。この紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

これからは母校発展に寄与できる松苓会として永く続くものと信じております。幸い本年選出された会長を初め、本部役員の皆様は立派な方々です。松苓会発展に導くご活躍を心よりお祈り申し上げます。

アクションプラン26

学校法人二松學舍
理事長
水戸　英則

「N2020PLAN」の実行計画である「アクションプラン」の26年度の大学関連実施事項は、大学4号館の建設、1・2・3各号館の改造・改修等のキャンパス整備計画や、大学教育の質的転換策、例えば、アクティブラーニングの導入等教員のファカルティ・デベロップメント(教育力をつけるうえでの研修)の推進や、前年度導入のライブキャンパスシステムのツールである学生ポートフォリオを利用した学習・指導履歴の可視化とこれを基にした進路指導の実施、実践的な英語プログラムの導入、就職支援を目的としたキャリア教育を正課科目として開講することなどが着実に進められました。

この結果、平成26年度も文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業、タイプ1＝教育の質転換型」に採択され、経常費補助金の加算措置や、同制度に採択された大学のみが申請できる「教育活性化設備整備事業」等の補助金を活用して、次世代型の自習施設である「ラーニング・コモンズ」を九段2号館に無線ランを九段キャンパス全体に整備し、学習環境の更なる充実を図りました。また、この7月には、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請していた研究プロジェクト「近代日本の『知』の形成と漢学」が、採択され、今後5年間にわたり文部科学省より助成を受け、研究を推進することになり、二松學舍大学の「日本漢学の拠点」としての地位を取り戻したことは、明るいニュースでした。

今後も、役員・教職員が一丸となって「アクションプラン」に掲げる課題を着実に達成して行くことが、「N2020PLAN」に掲げた二松學舍大学の将来像実現の鍵となるものと確信しております。廣田新会長の下、一新した松苓会と共に二松學舍大学がさらなる発展を遂げていくことを確信しております。

就任のご挨拶

二松學舍大学
学長
菅原　淳子

この4月に、渡辺前学長の後任として学長に就任致しました。私は国際政治経済学部の開設にあたって、平成4年に二松學舍大学に着任致しましたので、今年で24年目を迎えます。この間、国際交流センター長、図書館長、そしてこの3月末まで二期4年間、国際政治経済学部の学部長を務めて参りました。4月より学長ということで、改めて身の引き締まる思いでおります。

新たな執行部も発足し、高野和基教授と磯水絵教授のお二人に副学長お願い致しました。これからの4年間は、二人の副学長と協力して、本学が直面しているさまざまな課題に全力で対応していこうと思っております。

さて、大学の同窓会である松苓会の皆さまには、日頃から学生の教育・学習支援をはじめ学生募集や就職等、大学運営において様々な点でご支援・ご協力をいただいており、こころより感謝申し上げます。ご存知のように18歳人口の急激な減少の中で、今日、大学を取り巻く環境は大変厳しくなっております。全国の私立大学の四割が定員割れを起こしている中にあっても、お陰様で本学はこの4月、文学部は定員400名のところ483名、国際政治経済学部は定員200名のところ216名の新入生を迎えることができました。また大学院には文学研究科、国際政治経済学研究科を合わせて14名が進学致しました。

国際社会においてグローバル化、多様化が急速に進む中で、日本の高等教育も質的転換を求められております。本学では平成24年の創立百三十五年を機に、2020年（平成32年）の本学のあるべき姿を描いた長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定し、これを実現するために5カ年の具体的な行動計画「アクションプラン」を設け、目標達成を目指して課題に取り組んでおります。伝統を維持しながら新しい風を入れ、質の高い教育を今後も提供して参ります。

二松學舍大学の今後の発展のためには、松苓会との連携が大変重要だと思っております。松苓会の皆様のさらなるご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

平成27年度 第20回松苓会定期総会

平成27年6月13日

平成27年度松苓会定期総会が6月13日（土）の13時から二松學舍大学11階会議室で開催された。

来賓として五十嵐清常任理事（理事長代理）・菅原淳子学長をお迎えして行われた。全国から31支部の支部長（代理出席も含む）が参加した。

出席者は次のとおりである。

〈来　賓〉

五十嵐　清　常任理事
（相談役水戸理事長の代理）
菅原淳子　学長　（相談役）
末吉榮三　顧問

〈本　部〉

神津賢一郎（会長）
大地武雄・廣田克己（副会長）
小林公雄（幹事長）

〈常任幹事〉

千葉　仁（宮城県支部長）
新井喜義（群馬県支部長）
平野光治（神奈川県支部長）
小林憲二・神河秀春
菅原義博・高橋映子
助川忠弘

〈監　事〉

椎木伸治・磯　水絵（監事）

〈幹　事〉

山崎郁紀（北海道地区）
齋藤　裕（山形県支部長）
小島貴雄（富山県支部長）
武内昭徳（兵庫県支部長）
大西邦美（香川県支部長）
金城健一（沖縄県支部長）
小町邦明・志村　孝

〈支部長〉

増井義昭（北海道）・宮本義孝（岩手）
北村博（福島）・青山幸男（茨城代理）
寺内　進（栃木）・町田哲夫（埼玉）
辻　将一（千葉）・矢澤喜成（東京）
板山俊介（山梨）・関　保典（長野）
坂井福作（新潟）・中道佳宏（福井）
永井陵次（静岡）・小谷章公（鳥取）
江角　仁（島根）・永瀬　清（岡山）
平岡才二郎（広島）・大倉明子（徳島）
坂本和生（高知）・永淵道彦（福岡）
黒瀬孝志郎（長崎）・宮崎宣幸（宮崎）
岡元正昭（鹿児島）

〈事務局〉

佐藤　修

総会は菅原常任幹事の司会により、開会が宣言された。続いて物故者への黙祷があった。

事務局から、構成委員70名中、出席者45名、委任状23名の合計68名で総会が成立するとの報告があり、確認された。

神津会長挨拶の後、水戸理事長代理の五十嵐常任理事・菅原学長から挨拶を頂いた。廣田副会長を議長に選出の後、書記に高橋常任幹事・志村幹事が指名された。議事録署名人には、神河常任幹事、町田支部長（埼玉）が指名された。

◆議案審議

① 平成26年度事業報告
② 平成26度収支決算報告
　並びに監査報告
③ 平成27年度事業方針
　並びに計画（案）
④ 平成27年度予算（案）
⑤ 二松學舍松苓会都道府県支部に関する規程（案）について
⑥ 基本問題検討委員会委員の設置について
⑦ 松苓会役員改選について
⑧ 学校法人二松學舍評議員候補者の推薦について

議　案　審　議

次第に沿って議案の審議があり、一号議案から八号議案までそれぞれ異議なく承認された。

五号議案については、これまでの支部運営や支部助成等について規定化したもの。

六号議案については、松苓会の在り方について中長期的な視点で、将来を検討する必要があるため、基本問題検討委員会委員会を設置したいとの説明があり、異議なく承認された。

七号議案については、現役員の任期満了することを受けて、役員候補者選考委員会からの推薦に基づき、次のとおり承認された。任期は、平成三十年度まで。

会　長　廣田　克己（文38回）
副会長　新井　喜義（文37回）
副会長　山崎　正伸（文41回）
監　事　畠山　幸治（文37回）
監　事　木村　誠次（文39回）

なお、役員候補者選考委員会における審議過程の説明が十分でないとの意見があり、また、役員構成のバランス（学部・男女等）について問題提起があった。

八号議案については、神津会長から提案があり、異議なく承認された。

学校法人二松學舍評議員候補
次期会長　廣田　克己
現幹事長　小林　公雄

報告事項で、松苓会創設85周年記念事業について説明があった。

最後に、廣田新会長の挨拶及び副会長・監事の紹介があった。

平成27年度事業方針

二松學舍大学で学んだ学生が、大学を卒業すると同時に松苓会会員となります。本学を単なる出身校ではなく、母校であるという思いに至る存在感のある松苓会にしたい。卒業生一人一人を大切に、卒業生のための松苓会とすべく諸事業を改革し推進していきます。

一．ホームカミングデーは、卒業生（松苓会会員）が母校に集い、母校の近況を知るとともに、恩師や学友と再会し、交流と親睦を深めることを趣旨として、松苓会と大学が共催しているものです。

本年は大学九段1号館が改修工事のため、例年の学園祭期間中ではなく、日程を変更して12月6日（日）に開催します。

二．「松苓会報」については、今年度は、第53号（10月初旬／総会報告・支部活動報告等）、第54号（3月中旬／新卒者にむけて・支部活動等）を発行します。

三．支部活動等の卒業生支援事業

（一）支部活動振興のため、次のような施策のもとに活動を展開いたします。

①支部助成は、昨年度と同様、支部運営助成費として、支部活動に必要な経費（通信費、総会等開催時の会場費、封筒等印刷費など）を助成します。他に、支部総会開催費として開催支部に2万円、支部分会開催の場合は、1万円を助成します。また、支部報発行助成費として、発行経費を3万円を上限として実費を助成します。

②現在多くの支部が活動停滞状況にあります。今年度も、活動等を希望する支部と連携を取りながら、総会等の開催支援等を実施します。

③大学が地方で開催する大学説明会等を活用した支部活動の推進

本年も、地方における大学説明会が企画されています。山形、宮崎、福島、金沢、岡山、高崎、甲府、静岡、大阪での開催が、大学側から発表されています。すでに関係の支部には、この機会を利用した支部活動の展開を依頼しておりますが、本部としても積極的に支援していきます。

④支部総会等が未開催のうえ、本部総会欠席が長期にわたり続いている（過去5年位）支部に対し、引き続き積極的な働きかけを行っていきます。

（二）卒業生の諸活動（同期会、ゼミ会、サークル会等）に対する助成は、本年度も継続します（1団体10人以上出席、1万円の助成）。

四．母校支援事業、在学生支援事業

（一）松苓会奨学金

貸与奨学金制度に換えて5年目となります。貸与を受けた者からの返還も順調に行われているが、未返還者もいるので督促等を規程にのっとり実施していきます。新規貸出しは、3人予定。

（二）在学生教育支援助成

昨年度新たに設けた助成制度ですが、大学側の準備が整わず、昨年は未実施に終わりました。助成対象は、例えば、建学の精神を高揚するための自校教育や就職、教職支援講座など直接学生の教育に係る分野とし、学生には松苓会が提供したものであることを明示してもらい、学生に見える形で助成したい。ひいては学生が在学中に松苓会の存在を認識することに繋がることを期待したい。大学側の要望にそって、学長からの申請に基づき助成を実施します。

五．松苓会創設85周年記念事業の推進

昭和6年に松苓会が創設されてから、平成28年には85周年を迎えることとなります。創設85周年記念事業実行委員会でその準備にあたっておりますが、実施を翌年度に控え、さらに細目検討のうえ事業を推進していきます。

六．基本問題検討委員会での検討

平成14年度卒業生から終身会費の一括代理徴収を開始して、10年が経過しています。早晩、終身会費納入者が会員の多くを占めることとなります。終身会費制度下の松苓会のあり方、組織や会則の見直し等を含めた将来の松苓会のあり方を検討していきます。

七．終身会費納入手続きの推進、寄付金募金活動の展開

本年度も、平成13年度以前に卒業した会員のうち終身会費納入手続きが済んでいない会員に対する広報活動を継続して行います。さらに会費納入者に対しては、寄付金募金活動を展開していきます。

八．規程整備

引き続き松苓会の必要な規程整備を推進していきます。

二松學舎松苓会　幹事会開催

総会に先立って、幹事会が開催された。本部の三役・常任幹事・幹事・監事事務局の23名が出席し、総会の議案についての説明と、それに対する審議が行われた。

総会に提案する議案に対し理解を得られ、短い時間の中で会は効率的に進行された。

総会懇親会の開催

総会終了後、13階ラウンジに場所を移して、会費制の懇親会を開催した。

年に一回の定期総会で、北海道から沖縄まで、全国津々浦々の支部長が一堂に会して語り合い、有意義で楽しいひとときとなった。

支部長交代

岡山県　永瀬　清（文39）
平成27年4月1日付

東京都　矢澤喜成（文50）
平成27年5月23日付

平成27年度　二松學舍松苓会予算

平成27年4月1日～平成28年3月31日

○　収入の部

（単位：円）

前年度繰越金	698,358
入会金	3,525,000
会費	
新卒者終身会費	9,750,000
既卒者終身会費	500,000
小計	10,250,000
寄付金	500,000
雑収入・利息	3,000
合計	14,976,358

○　支出の部

事業費	
卒業生懇親会費	800,000
松苓会報等発行	
印刷・制作費	1,700,000
発送費	650,000
『茯苓』発行費	0
小計	2,350,000
卒業生支援事業	
支部運営助成費	1,500,000
支部報発行助成費	300,000
支部強化助成費	100,000
同期会・ゼミ会等助成費	100,000
小計	2,000,000
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	100,000
松苓会奨学金基金	500,000
教育研究大会助成費	50,000
小計	1,650,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	200,000
教育支援助成費	500,000
卒業記念品費	700,000
小計	1,450,000
事業費合計	8 250,000
運営費	
会議費	100,000
旅費・交通費	2,000,000
職務費	300,000
通信費	150,000
備品費	500,000
印刷費	350,000
消耗品費	70,000
慶弔費	80,000
謝礼金	10,000
手数料	50,000
雑費	20,000
運営費合計	3,630,000
特別会計	
周年事業積立金	0
終身会員積立金	2,665,000
特別会計合計	2,665,000
予備費	431,358
合計	14,976,358

平成27年度　松苓会特別会計予算

1　松苓会基金

（単位：円）

平成26年度からの繰越	2,000,247
利息	70
合計	2,000,317

2　周年事業積立金

平成26年度からの繰越	8,018,913
平成27年度繰入	0
利息	1,000
合計	8,019,913

3　終身会員積立金

（収入の部）

平成26年度からの繰越	60,777,177
平成27年度繰入	2,665,000
利息	7,500
合計	63,449,677

（支出の部）

終身会員サービス費(会報発送費１回分)	715,360
手数料	850
合計	716,210

4　松苓会奨学金

（収入の部）

平成26年度からの繰越	4,966,332
平成27年度繰入	500,000
平成27年度貸与返還金	858,000
利息	600
合計	6,324,932

（支出の部）

平成27年度奨学金貸与	1,395,000

平成26年度　松苓会収支決算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

○　収入の部

（単位：円）

前年度繰越金	580,776
入会金	3,630,000
会費	
新卒者終身会費	9,420,000
既卒者終身会費	780,000
小計	10,200,000
利息	3,004
寄付金・雑収入	653,000
合計	15,066,780

○　支出の部

事業費	
卒業生懇親会費	714,668
松苓会報等発行	
印刷・制作費	1,609,740
発送費	606,744
『茯苓』発行費	0
小計	2,216,484
卒業生支援事業	
支部運営助成費	1,447,933
支部報発行助成費	300,995
支部強化助成費	49,448
同期会等助成費	50,000
小計	1,848,376
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	100,000
松苓会奨学金基金	500,000
教育研究大会助成費	50,000
小計	1,650,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	180,000
教育支援助成費	0
卒業記念品費	700,000
小計	930,000
事業費合計	7,359,528
運営費	
会議費	144,205
旅費・交通費	2,141,113
職務費	280,000
通信費	104,308
備品費	505,980
印刷費	319,571
消耗品費	62,447
慶弔費	30,000
謝礼金	0
手数料	44,390
雑費	2,080
運営費合計	3,634,094
特別会計	
周年事業積立金	0
終身会員積立金	2,574,800
特別会計合計	2,574,800
予備費	800,000
合計	14,368,422
○収支残高	698,358

平成26年度　松苓会特別会計決算書

1　松苓会基金

（単位：円）

平成25年度からの繰越	2,000,179
利息	68
合計	2,000,247

2　周年事業積立金

平成25年度からの繰越	8,017,662
平成26年度繰入	0
利息	1,251
合計	8,018,913

3　終身会員積立金

（収入の部）

平成25年度からの繰越	58,881,707
平成26年度繰入	2,574,800
利息	7,728
合計	61,464,235

（支出の部）

終身会員サービス費（会報発送費1回分）	686,209
手数料	849
合計	687,058
○収支残高	60,777,177

4　松苓会奨学金

（収入の部）

平成25年度からの繰越	3,565,722
平成26年度繰入	500,000
平成26年度貸与返還金	900,000
利息	610
合計	4,966,332

（支出の部）

平成26年度奨学金貸与	0

会計監査報告書

平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成27年4月22日

二松學舍松苓会監事　椎木　伸治　㊞
二松學舍松苓会監事　磯　水絵　㊞

平成26年度会計収支決算は以上のとおりです。

平成27年４月22日

二松學舍松苓会会長　神津賢一郎　㊞
松苓会事務局　佐藤　修　㊞

二松學舍 松苓会新役員

6月13日の定期総会を受けて、新執行部が以下のとおり決まった。任期は平成31年3月まで。なお地区代表幹事は、総会後の地区支部長間の互選により選出された。東北・関東・中国・九州地区の代表幹事が交代した。

役員	氏名	卒回
顧問	佐佐木 鍾三郎	専15
顧問	雨海 博洋	専19
顧問	末吉 榮三	専12
相談役	水戸 英則	理事長
相談役	菅原 淳子	学長
会長	廣田 克己	文38
副会長	新井 喜義	文37
副会長	山崎 正伸	文41
幹事長	小林 公雄	文38
監事	畠山 幸治	文37
監事	木村 誠次	文39
常任幹事	小林 憲二	文38
常任幹事	平野 光治	文40
常任幹事	清水 登	文42
常任幹事	大山 由美子	文47
常任幹事	神河 秀春	文47
常任幹事	髙柳 幸雄	文49
常任幹事	菅原 義博	文53
常任幹事	高橋 映子	文53
常任幹事	志村 孝	文59
常任幹事	西園 隆士	文59
常任幹事	助川 忠弘	政03
常任幹事	山﨑 真之	政04
幹事（北海道）	山﨑 郁紀	文36
幹事（東北）	宮本 義孝	文32
幹事（関東）	辻 将一	文45
幹事（中部）	小島 貴雄	文47
幹事（近畿）	武内 昭徳	文47
幹事（中国）	平岡 才二郎	文26
幹事（四国）	大西 邦美	文40
幹事（九州）	宮崎 宣幸	文41
幹事（沖縄）	金城 健一	文38
幹事	星野 優子	文42
幹事	小町 邦明	文49
幹事	大渕 俊明	文50
幹事	山口 洋子	文54
幹事	小西 明徳	文60
幹事	町 泉寿郎	文60
幹事	中原 敬二	文62
幹事	濱野 学	政01
幹事	山口 浩司	政03
事務局長	佐藤 修	文41

副会長に就任して

副会長　新井　喜義

今年度の役員改選において図らずも副会長という大役を担うことになりました。4年という任期を皆さんのご協力を得て何とか全うしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

小生、これまで支部においては、故浦野匡彦先生のご存命中から携わっておりましたので多少分かっているつもりですが、本部のことになるとまったく分かりません。廣田会長はじめ他の役員さんの足を引っ張らないように勉強していかなくてはと考えております。

さて、二松學舍も学校創立百四十周年を間近に、同窓会も来年八十五周年を迎えます。小生が在学した頃のことを思うと隔世の感がいたします。学校創立九十周年を前に、浦野先生が当時のマスプロ教育に対して「学生と教師、教師と父兄、教師と経営陣における人間関係に円滑さを欠き学生の人格形成に支障を来している。」と、さらに、「我が二松學舍においては、お互いに話し合いの場をつくり協力と協調によって関係者一体の和の学園を確立したい。」と述べておられる。

我が同窓会も、学校、学生のことを思いながら支部と連携を取り合って、この二松學舍の進歩発展を助けていかなければならないと思っております。

（文37）

副会長　山崎　正伸

平成27年度の総会で、副会長に選任されました。これまで、神奈川支部の総会や賀詞交換会に偶に出るか、教員の立場で、講演をするといった関係でした。今回、副会長という大役をお受けすることになりまして、浦野会長時代に学内幹事として関わって以来のことになりました。これから、一つ一つ学びながら頑張っていきたいと思っています。

どの大学も、学生募集に大学経営に難しい時代に入って、大学と卒業生と在学生を結ぶことを強化しています。三者一体があって、伝統は継承されていくものだと思っています。この2年間、別の立場で、幾つかの支部総会にお邪魔して、いろいろなお話をお伺いしました。2学部3学科の小さな大学にとって、松苓会こそが、全国を繋ぐネットワークシステムだと理解しています。全国の支部会の状況や、卒業生の活躍を、繋いで行けたらと思っています。

これまで直接松苓会運営には関わりませんでしたので、内部事情もよく分かっていません。今後は、廣田克己会長、新井喜義副会長、小林公雄幹事長の諸先輩のご指導を仰ぎながら、松苓会の発展に努力したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（文41）

松苓会各支部活動報告

〈出席・参加者欄は敬称略〉

東京都支部

◆支部総会　支部長 矢澤 喜成

日時　平成27年5月23日（土）
場所　於二松學舍大学九段校舎1号館

総会は片山聖英幹事長の司会で始まり、井上和男支部長の挨拶の後、畠山幸治副支部長を議長として、矢澤喜成副支部長を新支部長に選出した。中原敬二事務局長により、活動報告・案、会計報告・予算と議事が滞り無く終了した。懇親会では、菅原義博常任幹事の司会で井上前支部長の労を労った。

○講演会　演題「教育から共育へ」
講師　立教大学名誉教授・自由学園最高学部長　渡辺憲司先生（東日本大震災直後、立教新座高校校長として卒業式を中止し、HPに掲載した「海を見つめ、大海に出よ。」という式辞が世間の反響を呼んだ。）先生の永年の学問と経験に裏打された、文学教育についての示唆に富む御講演だった。

参加者　23名
渡辺和則前学長
廣田克己松苓会副会長（文38）
平野光治神奈川県支部長（文40）
木村正雄顧問（文25）
畠山幸治（文37）・田丸　勉（文39）
佐藤　修（文41）・井上和男（文42）
星野優子（文42）・大山由美子（文47）
神河秀春（文47）・髙柳幸雄（文49）
片山聖英（文50）・矢澤喜成（文50）
菅原義博（文53）・高橋映子（文53）
中原敬二（文62）・原由来恵（文63）
渡辺大雄（文65）・平井　領（政13）
伊藤華子（文83）

◆支部報発行

○第58号　平成27年8月1日発行
・東京支部に皆様の御力を
　支部長　矢澤　喜成
・四年間の支部長時代を振り返って
　前支部長　井上　和男
・支部総会・講演会の報告
・慥かに前を歩む人
　片山聖英
・春のセンバツから
　渡辺大雄
・支部女子会企画行事
　第三回
　目黒雅叙園中華コースと周辺文学散歩
・事務局だより

二松學舍大学九段１号館にて

愛知県支部

◆支部総会　支部長　松田博文

平成27年6月14日（日曜日）に、伏見ヒルトンホテル前の「想」にて、13年ぶりとなる松苓会愛知県支部総会・懇親会（第3回）を開催致しました。お忙しい中、9名の同窓生に出席して頂きました。70代の諸先輩から30代の壮年の方までという世代を越えたその集いでは、昭和の木造校舎のお話から、平成の新学部、現在の九段校舎、附属高校の甲子園での活躍等、二松學舍の伝統を感じた一時でした。

また、卒業後の皆様の人生記等を伺い、激励を頂くとともに未来に向けての活力が湧いてくるような時間を過ごさせて頂きました。話し合いの中で、会の無理のない継続をするべく、4年毎に（オリンピックイヤー）に会を催すことに決め、閉会の運びとなりました。

会の開催にあたり多くの方にご協力を頂きましたことを感謝するとともに、次世代に橋渡しをし、末永く会の活動が続くことを心に留め置き、これからも微力ながら尽力してまいりますので、支部会員の皆様のご協力よろしくお願いします。

昨今の異常気象や、各地でおきる天災、混沌とした政治情勢等日々の生活での不安感もありますが、良い意味での鈍感さと、未来への希望を抱きつつ、皆様の幸多き日常を祈念致します。

名古屋市・想にて

参加者（9名）
新海　守（文30）・岡野英雄（文32）
佐藤孝夫（文37）・本目　功（文48）
稲森裕之（文52）・白井基起（文55）
松田博文（文55）・新海　直（文59）
紺屋　仁（文71）

岩手県支部

◆支部総会　支部長　宮本義孝

平成27年7月26日（日）
於・サンセール盛岡
〈出席者〉
小山尊史（文27）・瀬川孝三（文32）
小笠原克夫（文34）・伊藤慶子（文38）
川村敏明（文40）・大星栄子（文45）
長谷川ルリ子（文47）・宮本義孝（文32）

岩手県では所在のはっきりしている会員は130名ほどいます。呼掛けに反応のない会員も多いのですが、それでも40名ほどの会員は総会出席や会費納入に応じてくれています。

県支部では会員との繋りを推進す

る一つは会報だと考え、お知らせお願いの他、出来るだけ多く会報の発行を心掛けています。

ただ助成金3万円の枠がありますので会報はB4版を横にして手書きにしています。郵送料はどうしようもないのですが、手書きだとコピー代だけですみます。一枚5円として百部つくっても500円です。それで昨年度は8回出すことができました。

最近は会報を再編集し、冊子に仕立て保存版を発行しています。今年は文学散歩の記録をまとめ『小さな旅　東京篇』もつくりました。

それから岩手県の支部活動についてもう一つ大きな課題があります。

少子化が進むにつれて卒業生の教員になる路が狭められつつあります。それでも県出身者は職を首都圏に求めほとんど郷里に帰ってきません。つまり平成10年以降の卒業生で支部を構成する会員はほとんどいないわけです。後、15年もすれば二松學舍出身の教員は一人もいなくなってしまいます。

そんな中、今年の総会では最近まで現役管理職だった会員から明るい情報を伺いました。

岩手県は中学卒業者数のピークが平成元年でした。その時大量に採用された教員が、今後徐々に定年を迎えます。又、以前に比べ採用試験に挑戦できる年齢は引き上げられているそうです。厳しい時代に変りはないがチャンスがないわけではないそうです。

そんな中、78回生の一人が今年本採用になり、今、二松學舍の卒業生が校長をしている高校で教鞭を取っています。

これから支部も明るいニュースを見つけ、今一度、会員にどういう支援ができるか考え直したいと思っております。

長野県支部

◆支部報発行

○第58号　平成26年9月15日発行
・筆順について　支部長　宮本義孝

○第59号　平成26年10月26日
・中国　恋の詩　支部長　宮本義孝

○第60号　平成27年1月25日発行
・古本、只今三百円也　支部長　宮本義孝

○第61号　平成27年3月7日発行
・孔子の新しさ　儒教をキリスト教から考える　支部長　宮本義孝

○第62号　平成27年6月7日発行
・最近あったこと　支部長　宮本義孝

○特別号　平成27年7月18日発行
・新学長　菅原淳子先生の入学式式辞

○第63号　平成27年8月1日発行
・総会、懇親会を終えて　支部長　宮本義孝

◆総会　支部幹事　江村春彦

平成27年度長野県支部総会が、去る8月1日（土）にホテル信濃路（長野市中御所岡田町）において開催されました。支部総会には、大学関係者として、菅原淳子学長をお招きし、関保典支部長をはじめとする7名が県内同窓として出席者しました。

総会では、関支部長の挨拶の後、菅原学長より、平成27年度の大学の入試結果や今後の学生確保のための具体的な取り組みについてお話がありました。議事については、平成26年度活動報告、会計報告、さらに平成27年度予算案が満場一致で承認されました。

また、今回は2年に一度の役員改選にあたり、現執行部の続投と合わせて、執行部推薦の石川麻貴さん（文71）が新幹事として承認されました。

総会終了後、菅原学長より「国家と民族―なぜ民族問題は起きるのか―」と題したご講演をいただきました。ご講演では、まず世界各国の国民国家の形成状況に触れられ、日本のような一つの民族集団が総人口の9割以上を占める国家は23・3％、一つの民族集団が総人口の過半数を占める国家は49・7％である半面、どの民族集団も総人口の半数に満たない国家が残りの27％存在していることが具体的な国名とともに示されました。続いて、多民族国家が常に民族問題を抱えているわけではなく、社会、政治、経済、文化における矛盾構造が「民族」という文脈でとらえられることによって民族問題が浮上すること、「民族」としての共有意識の拠り所が多様であるため、事例ごとに問題の特質が異なることから、民族問題を全体として理解するのは困難であること、についての説明がありました。それを基に、民族問題の要因をA人為的な国境線、B民族集団間の関係、C国家と民族の相克という形で類型化するという先生のお考えが説明されました。現在、世界では多くの民族問題を抱えています。それが日本に経済、政治などの影響を与えることもあります。私は、マスコミからの情報を遠い国のできごとのようにしか捉えていませんでしたが、その民族問題の背景を考えるきっかけを与えていただいたことで、視野を少し広げられたように感じました。

懇親会では、例年のように和やかな雰囲気の中で、昔話や学友などの話からさまざまな

長野市・ホテル信濃路にて

話題に花が咲きました。本音の話のできる、同窓という強いつながりを確認できる楽しい一時でした。

◆支部報発行

○第26号　平成27年6月18日発行

・論語と日本人　支部長　関　保典
・善光寺雑感　副学長　磯　水絵
・アカシヤの大連　上原克善
・松本平周辺を巡って　副支部長　清水　登
・支部総会のお知らせ　大学情報

神奈川県支部

◆総会　支部長　平野光治

平成27年8月8日（土）校舎見学後13時より、二松學舍大学九段3号館8階にて、第38回二松學舍松苓会神奈川県支部総会が開催されました。開会の辞に始まり、支部長挨拶後、来賓の廣田克己松苓会長、矢澤喜成東京都支部長、辻　将一千葉県支部長、永井陵次静岡県支部長、藤井隆晴神奈川県教員の会会長よりご挨拶、ご祝辞をいただきました。

山口正樹県央地区長を議長に選出して、議事に入りました。

平成26年度事業報告、会計報告が小林孝彰事務局長から提案され、片桐佐和子監査から監査報告があり、承認されました。小林事務局長により提案された平成27年度事業計画、予算案も拍手で承認されました。続いて、「文学歴史探訪」について山口正樹県央地区長より案内がありました。

総会終了後「大学の現状と卒業生に向けて」とのご演題のもと、二松學舍大学副学長髙野和基教授の講演が行われました。大学改革に伴う二松學舍大学の取り組みや努力の現状が具体的に紹介されました。大学教育の困難さや改革への努力、学生へのきめ細かい指導・援助等私たち卒業生の知らない事が多くありました。私の体験した大学教育ではなく、中高の教育と変わらぬ教育・指導がなされているとの印象を強く持ちました。また、母校について知ることの必要性を感じた講演でした。記念撮影後、会場を変えて懇親会を持ちました。乾杯後、参加者全員より一言いただきました。

星野優子東京支部副支部長より、10月4日開催の「目黒雅叙園中華コースと周辺文学散歩」の紹介がありました。

和やかな雰囲気のもと終了いたしました。

多くの皆様にご参加いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

二松學舍大学九段３号館にて

総会参加者は次のとおりです。

■来賓

松苓会会長　廣田克己（文38）
東京都支部長　矢澤喜成（文50）
同副支部長　星野優子（文42）
同幹事長　片山聖英（文50）
千葉県支部長　辻　将一（文45）
静岡県支部長　永井陵次（文38）
神奈川県教員の会会長　藤井隆晴（文47）

■講　師

二松學舍大学副学長　髙野和基

■出席者

東京都支部顧問　木村正雄（文25）

■神奈川県支部

浅居美智子（文33）・小林孝彰（文38）
平野光治（文40）・中川俊一郎（文43）
山口正樹（文53）・片桐佐和子（文57）
網野将美（文64）・佐藤　馨（文修5）

千葉県支部

◆総会　副支部長　前田康晴

去る8月22日（土）午後1時30分より、「千葉県文化会館」にて、二松學舍松苓会千葉県支部総会を開催し、無事終了することができました。支部会員の皆様には、厚く御礼申し上げます。その後、記念講演として元千葉市立緑町中学校校長・中村市宣先生より、「国語教育の根っこ」と題し、約1時間30分のお話を賜りました。その内容は、中村先生の、中学校教諭（葛城中学校など）・千葉市教育センター指導主事《授業改善の研究》・校長（山王中学校・緑町中学校）時代の国語教育や生徒指導についての講演でした。全てのお話が体験に基づいていたため、その内容には現実味があり説得力があり、唯々私たちの心に響きました。更に、恩師・雨海先生のお話、二松學舍教育研究会発足についてのお話などもあり、いつまでも聞いていたいという気持ちにさせられ、興味が尽きませんでした。講演終了後も、出席の会員から多くの質疑があり、大変有意義な時間となりました。多くの会員の方々から、もう一度講演を賜りたいという御意見も戴きました。本当にありがとうございました。

その後、午後4時20分より、ここ数年ご協力を戴いている竹内恵子さん経営の「喫茶ボンヴィル」にて、懇親会を開催しました。本年も午後10時近くまで、過ぎゆく刻を忘れての歓談でありました。今回も遠く東京都・神奈川県からの参加があり、大いに盛り上がりました。次回の再会を期して散会致しました。

〈出席者〉

千葉市・千葉県文化会館にて

（来賓）
松苓会幹事長　小林公雄（文38）
東京都支部長　矢澤喜成（文50）
神奈川県支部長　平野光治（文40）
（講師）
元千葉市立緑町中学校校長
中村市宣（文40）
片山聖英（文50東京都支部幹事長）
渡辺大雄（文65東京都支部）
真鍋　透（文57埼玉県支部）
辻　将一（文45）・前田康晴（文49）
田村喜夫（文50）・藤本敏雄（文40）
小林憲二（文38）・竹内恵子（文37）
行木康夫（文44）・伊藤　駿（文78）
松本眞月（在学4年生）

◆支部報発行

○第19号　平成27年3月25日発行

・「還暦、感無量」
支部長　辻　将一
・「総会懇親会に参加して」
東京都支部常任幹事　渡辺大雄
・平成25年度千葉県支部総会報告
事務局長　土屋　誠
・連載「愚魯の戯言」
藤本敏雄
・会計報告
・「日本文化の源流　古代中国の発想」
辻　将一
・二松學舎松苓会千葉支部「文学散歩」のつどい報告
・「文学散歩のつどい～市川～」
荒岡拓磨
・平成25年度活動報告
・平成26年度支部総会・懇親会参加者

大分県支部

◆総会　支部幹事　甲斐啓一郎

8月22日（土）午後5時より大分市府内町の郷土料理『こつこつ庵』で平成27年度松苓会大分県支部総会を開催。参加者は8名。

加茂忍支部長のあいさつの中で、体調不良のために松苓会第20回定期総会に出席できなかったこと、そして体調が思わしくないので支部長を交代したい旨を発表され一同大いに驚く。次期支部長については本日欠席されている方に適任の方がおられるかも知れないということで、時機を見て支部長から推薦していただくことにしてその話を終えた。当分の間、幹事が支部長の役を兼任するということになった。

大きな驚きの中で始まった総会であるが、美味しい料理に舌鼓を打ちアルコールが入ってくると近況報告も俄然盛り上がり、戦時中の二松の校舎の焼けた話から、現在のマスコミの偏向報道まで話はとりとめも、まとまりもなく続くのでした。

平野芳彦氏（専14）毎年、東京での杵築高校同窓会に参加中、その際母校の大学を訪ね、学長室でお話が出来たのですが、今年は時間が無く残念でした。畔津真智子氏（文34）は是本信義氏とともに参加。畔津氏は私立幼稚園の監事の活動と是本氏の食事の管理でお忙しく、是本氏は会員制の経済誌に経済マネジメントの投稿をしているとのことでした。阿部誠文氏（文36）今年は俳壇師系図や「有馬朗人論」を発表。9月に『台湾俳壇史』を刊行。3月には70枚ばかりの小説も発表しました。加茂忍氏（文36）3月より透析を受けています。火木土の三日は疲れます。中井智賀子氏（文44）自宅で書写教室を開いています。ほぼ毎日生徒の出入りがあり「自筆の大切さ、素晴らしさ」を共有し合っています。手書きの少なくなっている時代だからこそ、意義あることだと思っています。中井則夫氏（文47）知的障がい者20年、老人介護13年と「福祉」かかわって30年がすぎました。人が好きだから、もう少し頑張ってみます。甲斐啓一郎（文52）由布高校勤務4年目、特活部長も4年目。大分県松苓会の二度目の幹事5年目です。

幹事が用意したラジカセとテープで二松學舎校歌を流し、全員で校歌を斉唱。最後は、畔津氏の音頭で万歳三唱し、今年度の総会は解散となった。

大分市・こつこつ庵にて

北海道支部

◆支部総会　支部長　増井義昭

平成27年8月22日（土）午後5時30分より松苓会北海道支部総会が開催された。

例年通り総会後には盛大な懇親会が執り行われる為、会場はススキノに有る「麗―URARA―」にと、山﨑事務局長の計らいに、10名の会員が集合いたしました。

議題の平成26年度の決算報告書及び27年度予算案を恙無く進行させ、待望の懇親会の時間となりました。6月に行われた松苓会総会に於て、新会長に廣田克己氏（文38）が選任された報告を行う。

大学側も学長が替わられ菅原淳子氏へ（国際関係史）と言う二松學舎初の女性学長が誕生した事と、国際政治経済学部所属と言う二重の驚きに、我が二松學舎も大きな変貌期をついに迎えたのだとの話し合いが成されました。当支部の会合出席者は全て、文学部OBの為か、心の中に何か戸惑いを感じるものでは有りますが、誰れかからの「そうだよな、別にいいんだよな」の言葉に大いに納得をされた皆々様でした。

今年度の総会出席者数は久しぶりに10名と二桁台の確保が出来ました。最近は一桁後半が続いていた為か、随分と人数が多いように感じてしまいました。昔を思えば、もう少し出席者がいた様に思います。年

代層も巾が広く、先輩の昔話、後輩からの最近の二松はと、尽きる事のない話が続いていた。その様な思いがありました。当支部は最近出席者の平均年齢が若返っております。と言う事は、50、60、70代の会員の出席者が減少しているという事になります。それはとても寂しい事です。

先輩から後輩へ、後輩からそのまた後輩へと言う社会の成り立ちを切らせてしまいかねません。先輩諸氏の皆さん、総会、新年会、各分会へ顔を見せて下さい。そして、二松の昔話を後輩に沢山聞かせてください。楽しみにしております。卒業からの時間の浅い若い同級生、何も気後れする事は有りません。お爺さんのような先輩の昔話を聞きに来て下さい。そうして今風の二松の事を教えて下さい楽しいものですよ。

10月に入りますと、三分会（道南分会、道東分会、道北分会）の集まりが有ります。

卒業からの時間が多い分だけ二松が遠くなります。その部分を松苓会が埋められたらと思っております。

札幌市・麗にて

◆支部報発行

○第51号　平成27年7月20日発行

・支部会員の異動

・平成27年新年会開催

・平成27年度支部総会のお知らせ

・書籍紹介　大学トピックス

福岡県支部

◆支部総会　支部長　永淵　道彦

平成27年8月29日（土）福岡県支部は、定例支部会を筑紫野市二日市中央通り商店街の福岡二日市文学館セミナー室で行いました。支部の課題について話し合い、老舗「花源」の料理を食しつつ懇親を深めました。午後一時から四時半、出席者は以下となりました。

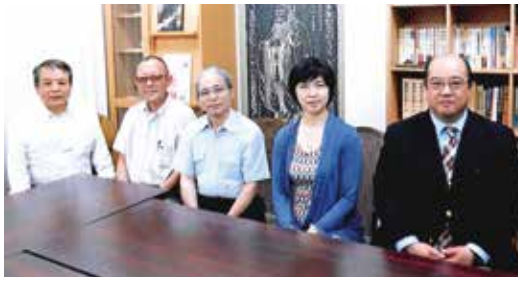
阿部誠文（文36）・正生英彦（文48）

桐　隆一（文57）・井料洋美（文58）

永淵道彦（文36）

後継支部長として正生英彦氏を副支部長に推挙し決定する。現在、正生氏は黒崎播磨㈱で部長の要職にあり、多忙の要職を離れる数年を、引き続き永淵が支部長を継続する。その間、支部長、副支部長が協力し、支部の現状を踏まえた体制を整えていく。

以上の支部の課題の話し合いに続けて、桐　隆一氏（東福岡高校教諭）の高校教員の現状報告や、他会員の近況などを聞き、懇親を深めました。


筑紫野市・福岡二日市文学館にて

◆支部報発行

○第14号　平成27年8月5日発行

・本部定期総会の報告

・「無欲で無心の努力」を勧める　永淵道彦

・支部総会のご案内　他

秋田県支部

◆支部総会　支部長　三浦　基

平成27年8月29日（土）午後6時から、秋田駅前の「和ごころ」で開催した。

今年度の県支部総会案内は、「松苓会名簿―秋田県」平成24年7月20日発行版記載191名から、宛先不明返送を除く154名に送付した。今年度も、松苓会本部から「支部運営費」の助成を受け、開催できた。

昨年度は出席者が3名。今年は、なんと9名。いつものホテルから、居酒屋ふうの「炭火焼き」へ、会費もダウンした。支部活動といっても、年一回の総会、参加者の減少固定、事務局の多忙等から、活動の弱体化が実態であること。そこで参加者協議の結果、支部役員交代、県北・中央・県南3地区に支部役員を置き、輪番で研修会を開催すること、支部総会は集まりやすさから中央地区で担当することで了解した。今年度中に具体化し、来年度に引き継ぎたい。

年に一度、同窓の先輩、後輩が、過去に共有した時代と学びを語り、キャリアデザインを考え、今を互いに感じとる、そんな時を過ごしたいものだ。例年、8月第3または第5（大曲花火は第4）土曜日に開催している。

秋田市・和ごころにて

出席者

関谷都志子（文35）・佐藤　寛（文38）

三浦　基（文41）・奥山陽子（文46）

今入直樹（文53）・鈴木隆博（文54）

永井しおり（文54）・熊谷禎子（文56）

谷内直毅（文56）

香川県支部

◆**支部総会**　支部長　大西邦美

期日　平成27年8月29日18時
場所　高松市古新町
　桃花苑（リーガホテルゼスト高松別館）

今年度総会は、松苓会本部より副会長山崎正伸氏をお迎えして、支部会員10名とともに開催しました。

事業報告、会計報告の後、役員改選を行い、若い会員にも役員に加わっていただき、支部活動の活性化を期待したところです。

今回の討議の中心は松苓会ならびに支部活動の活性化と組織強化、帰属意識を高める方策についてでした。国際政治経済学部卒業生も増えており、彼らにも同窓会への積極的な参加を促したいと考えています。そういうことから、SNSを利用して支部活動の紹介や、書道展、書籍出版など会員の取り組みを発信し、また松苓会本部ならびに支部間の連携がはかれる工夫も必要だという建設的な意見交換が行われました。

懇親会の良さは、学生時代の思い出話に止まらず、仕事や地域活動の中での人的結びつきがあったことを再発見でき、改めて親しみが増すことです。夏の夕べ、予定時間を大幅に超えて、大いに懇親を深められた一時でした。こうした総会の雰囲気もHPやフェイスブック（FB）で紹介することで、支部活動への参加が増えていくものと期待しています。

香川県支部では9月初めにFB「二松學舍松苓会香川県支部」を作り会員の作品展情報等を発表しています。どうぞご覧下さい。

（来賓）
山崎正伸（松苓会副会長）
（支部会員）
山本由美子（文38）・大西邦美（文40）
大森慎一（文42）・川﨑久美子（文46）
中條敏雄（文50）・青井洋（文55）
佐藤宏一（文55）・吉野孝子（文56）
都丸恵子（文58）・田片博伸（文修20）

高松市・桃花苑にて

宮崎県支部

◆**支部総会**　支部長　宮崎宣幸

昨年延べ8名の参加者に大地武雄松苓会副会長・山崎正伸副学長の2名で10名だった宮崎県支部総会は、今年は、後藤祐子さん（文51）と、斉田清秀君（文44）それに私の3名であった。35名に案内状を発送したが、所用や病等で欠席の連絡があった人が6・7名、後は何の連絡もなく、母校への関心の薄さが表れた。今回参加の3名以外にも母校への愛着を感じ関心を寄せている卒業生も10名近く居るので、案内方法、会場、内容等を検討して毎回少なくとも5名以上、できれば10名近くの会員の参加を得たいと思っています。

懇談の内容は、学生時代の佐古先生の思い出や剣持先生の思い出、特に斉田君は佐古ゼミに参加していて田無の先生の自宅にお伺いしたことや、遠藤周作先生との出会いなどを懐かしく語っていました。後藤さんは佐古先生が丁度二松學舍にいらっしゃらないときに在席し、非常にそのことを残念に思っていたこと。斉田君は現在マラソンをしていて地元の大会や東京マラソンではフジテレビから2週間に亘って学校の授業風景などいろいろ取材を受けたことを話してくれました。

卒業生の中には、詩のボクシング県内チャンピオンの藤崎正二先生（文63）や、書道の県内無鑑査後藤祐子先生などいろいろ才能を発揮している会員もいますので、情報を集めて本部に連絡するなり支部会報を編集するなりしたいと思っています。

宮崎市・雲の平にて

群馬県支部

◆**支部報発行**

○第44号　平成27年3月1日発行
・平成27年度総会・新年会開催総会出席者
・新しい年を迎えて
　支部長　新井　喜義
・ホームカミングデーに参加して
　松本茂治
・リレー随想・上州万歳⑥
　二松學舍大学躰道部に入部して
　林　恒徳
・第三回群馬松苓会「書展」報告
　宮森庸子
・新入会員紹介「新社会人になって」
　三輪祐美子
・「松苓会群馬県支部」公式コンテンツ
・支部事業・会計報告　支部事業計画・予算案
・支部会費納入方法について

山形県支部

◆**支部総会**　支部長　齋藤　裕

高等学校教員及び受験生・保護者等を対象とした二松學舍大学の説明会、その後の卒業生との懇談会（意見交換会）の案内を大学の入試課からいただきました。ところが、支部総会の開催日が、大学説明会と重なっていました。すでに総会の案内も

山形市・マルハチにて

出していたこともあり、松苓会本部と相談し、今年度の支部総会は中止することとしました。しかし、説明会・懇談会に会員が6名出席することから、松苓会本部の好意的な判断で、懇談会が支部総会扱いになりました。ともあれ、山形市で初めて支部の総会がまがりなりに開催できました。

平成27年6月20日（土）大学説明会が開催された山形グランドホテル周辺は「さくらんぼまつり」でたいへん賑やかでした。説明会には高校生と保護者、大学関係者、松苓会会員約10名が参加しました。大学の概要説明が2名の教授からありました。各種資格が取得できるように工夫されたカリキュラム、きめ細やかなキャリア指導等をお聞きし、今の学生は恵まれているなと感じました。

説明会終了後、市内の「マルハチ」で懇談・懇親会が行われ、大学の近況などをお聞きしました。今回随行された大学事務部の方と同期の参加者もおり、共通の恩師のことや、当時の学生生活の思い出に大いに盛り上がり、参加者一同楽しく有意義なひとときを過ごすことができました。

〈出席者〉
田中正樹（中国文学科主任）
押野　洋（国際政治経済学科主任）
西園隆士（教学事務部長・文59）
小沢洋之（入試課長補佐・文64）
廣田克己（松苓会会長）
齋藤　裕（文38）・樋口栄寛（文39）
原田洋一（文52）・今野紀生（文55）
佐藤順子（文56）・髙橋勇一（文64）

◆支部報発行
○　平成27年9月
・支部総会、山形市で開催
・原点は二松學舍にありました
・平成28年度総会（予告）

髙橋勇一

卒業生だより

昭和56年度入学　D組同窓会

髙橋　健一

「二松學舍大学文学部昭和56年度入学　D組」は平成27年6月20日（土）に二松學舍大学の1号館13階のラウンジで、参加者25名で同窓会を開きました。卒業したのは昭和60年ですから、ちょうど卒業して30年になります。

同窓会開催のきっかけは、昨年の11月に行われた「ホームカミングデー」でした。この催しにD組のメンバーが6名出席していました。本当に懐かしくて、「来年は卒業して30年ということでもあるし、同窓会をやろうよ。」ということになり、高橋が中心となって準備をすることになりました。

そこから、半年ほどかけて皆の連絡先を調べて結果、クラス80名のうち50名程の連絡先がわかりましました。そこで、D組のクラスメイトで現在二松學舍大学にお勤めの菅原義博君に大変お骨折りいただき、何とか同窓会を開くことができました。

当日は、青森や滋賀といった遠方からの参加者含め、男性8名女性17名の参加者でにぎやかに開かれました。30年ぶりに会う方も多く、ぱっと見ただけでは誰だかわからない方がいたのも事実です。しかし、ちょっと話せば30年の時を瞬く間に飛び越え、あっという間に大学時代に戻ることができました。大学には4年間しかいなかったのに、卒業して30年もたつのに。この不思議な気持ちは何でしょう。それは二松學舍で過ごした4年間が本当に楽しかったのだということに他ならないと思います。思えばD組はとても仲のよかったクラスだと思います。当時は、学年をアイウエオ順に並べたクラス構成だったのでD組には「鈴木」が11人、「高橋」が7人もいた関係で、クラスメイトを名字ではなく下の名前で呼んでいました。クラスコンパも頻繁に開かれ、飯田橋や神楽坂で大騒ぎしていたことを思い出します。スマホもゲームもなかった時代だからこそ濃密に付き合えたクラスメイトという気がしてなりません。同窓会は、数年後の再会を誓ってお開きとなりましたが、延長戦は九段下の居酒屋で夜遅くまで続きました。

二松學舍大学九段１号館にて

最後に、同窓会を開くにあたりいろいろとお世話になった大学や松苓会の皆様に厚く御礼申しあげます。

北から南から

最近あったこと

宮本義孝（文32）

五月二五日、今春、就任したばかりの県私学協会事務局長長谷川英治氏の訪問を受けた。用件は、先月あった理事会・総会の議事録に署名、捺印することだった。

いつもは、こんな場合、郵送で済ましていたのだが、と思っていると、「天気が良いので松園に帰るついで、寄らしてもらいました」という話だった。

氏が来て、玄関先で、持参した議事録に目を通し、印鑑を取り出そうとしていたら、背後から「先生は、大学はどちらですか」と声をかけてきた。

「東京の、二松學舍です。小さい学校であまりよく知られていないんですが・・・」と応えると、

「そうでしたか。実は家内も二松學舍出身です」と言った。

或時、奥さんと話をしていて、何かの拍子で私の名前が出たらしい。奥さんは「その人、私の知った人かもしれない」と言ったというのだ。

事務局長の奥さんが大学の後輩だと知って、不思議に心が打ち解け、その後しばし、世間話に話がはずんだ。

それだけなら、縁はなかなか味なものだ、ぐらいですむところだが、異なものである縁が、翌二六日、また起こった。

朝、読売新聞を見ていたら、文化欄に小野寺苓さんのことが載っていた。

苓さんはお父様が牟岐喆雄（むきてつお）という方で、二松學舍専門学校第二回（昭和六年度）卒業生である。

牟岐先輩は、小学校の代用教員をしていた二八歳の時、盛岡の実業家、三田義正氏のお目にとまり、月々、学費を出してもらい、二松學舍で漢学を学んだ人である。今の実業家は己の為にしか金を使わないが、昔の実業家は、日本や郷土の為、それを人材育成に使うという風があったのである。

牟岐先輩については、角川書店の『日本姓氏歴史人物大辞典』第3巻岩手県篇には、次のようにある。

牟岐喆雄（1901～94）教育学者。西磐井郡一関町生まれ。

二松學舍専門学校卒業。各県立中学校（旧制）・高等学校教諭を経て、昭和二二年より一関第二・花巻・一関第一・水沢等の県立高等学校長を歴任し、同三一年に退職。

同年から同三四年まで県教育委員に任じられ、うち約一年半を委員長として県教育行政に尽くした（以下略）。

尚、この松苓会県支部も牟岐先輩たちが中心になって創られ、牟岐先輩は、初代の支部長にもなられた。

『岩手県支部便り』第62号

娘さんである小野寺苓さんとは、一度、或（ある）会で同席したことがあるだけで、よく存じ上げていなかったが、いつだったか、支部総会の時、一関第二高等学校の校長だった瀬川孝三君が、「牟岐先生が中心になって創った県支部が、今もつづいていることを知ったら、先生はお喜びなさるだろう。会報を代りに苓さんにも送ったらどうだろう」と提案なさった。

小野寺苓さんは詩人でもあり、文章を能くする方だ。思いつきの内容でなぐり書きのような会報を送るには、多少、気がひけたけれど、会員の要望に押されて送らせてもらっている。

松苓会の会報ながら、実は会員からはあまり反応がない。けれど、小野寺苓さんからは、送るたび、いつも感想を添えた丁寧な礼状をいただいている。そして実家に帰る折には、会報を仏前にお供えしてくれている、とのことである。

何かしら仕事をしていると不思議な縁に出会うものである。

（『岩手県支部便り』第62号）

〈編集部注〉

文中、読売新聞文化欄の記事は、小野寺苓著『女の名前』（小学館文庫）の紹介記事

牟岐喆雄（専2）は、岩手県支部の生みの親であるとともに、松苓会創設に大きくかかわった方で、二松學舍創立百周年の折の『大学新聞』（173号）に「松苓会の発足」の記事を寄せて、その中で、「その年の九月に生まれた私の娘に『苓』と命名して、〝松苓〟の誕生にあやからせた」と語っている。

東京支部に皆様の御力を

矢澤喜成（文50）

此の度東京支部長を拝命致しました、学部五十期、大学院修士十七期の矢澤と申します。

扨、卒業爾来三十余年、私の楽しみとする所があります。一つは、大学で共に学んだ友人達と今でも親交のある事。又一つは、作家となられた渡瀬草一郎君等、数十名に亘る教え子を母校に進学させて戴いて来た事。更に一つは、此の東京支部の活動を通じ、全国高等学校国語科指導研究会役員として御世話戴いた丸山和雄・大山正浩両先輩、諫武保夫先輩、大変御世話になっている神河秀春・髙柳幸雄両先輩等、多くの出逢いがあった事です。

斯くして私が現在在るのは、文学の何たるかをも弁えぬ私を御教導下さった齋藤喜代子先生始め、多くの二松學舍の先生方の御教導の御蔭です。其の母校に、このような形で如何許りか寄与出来る事は、更なる喜びとする所です。

現在、東京支部の役員は、星野優子副支部長を始め、多士済済です。其の役員の方々の強力なる御助力を戴き、木村正雄前々支部長や、井上和男前支部長が進めて来られた支部の興隆に微力を竭くし、延いては漢学の府たる母校の発展に、少しくも貢献してゆきたいと存じます。

東京支部会員の皆様。此の東京支部を、皆様にとって、有意義な時間を過ごせる場、新しい出逢いがあり、様々な交流が深められる場、そして、何よりも楽しい時間を共有出来る場にしてゆきたいと存じます。学生時代に戻って同窓生と語り合い、また、何かを学ぶ事の新鮮さを取り戻す機会もあろうかと思います。より多くの皆様の、各行事への積極的な御参加、支部活動への更なる御協力を、役員一同、御待ちして居ります。

（『東京支部報』第58号）

論語と日本人

関　保典（文35）

今年の五月は大変好天に恵まれました。そして信州長野市は善光寺のご開帳と、もうひとつ、新幹線の金沢までの延伸というニュースが重なって、全国からたくさんのみなさんが長野市を訪れてくださいました。まさに長野市内は、人・人・人でごった返しておりました。善光寺の阿弥陀如来さまの「摂取不捨」（わたしはあなたを摂め取って決して捨てない。あなたを必ず救うぞ）というお心が、世の中のみなさんの気持ちに届いて、善光寺に足を運ばれ、回向柱に手を触れられ、阿弥陀如来さまのお救いにあやかりたいと言う気持ちを込めてお参りをなされたのではないかと思っております。そんな四月・五月の信州でございましたが、六月の梅雨も明けて今年も暑い夏が訪れてまいりました。会員のみなさま方におかれましてはご多忙な中にもご健勝のことと存じます。

さて、大学の方では、昨年の年末、九段に四号館が完成しました。三号館の反対側・市ヶ谷駅の方向に五〇メートルほど行ったところに完成しました。一号館からは二百メートルほどの近距離にあります。「九段の町に大学のキャンパスを」との声に応えて一歩一歩進展している様が目に見えて参りました。うれしいかぎりでございます。（中略）

ここで学ぶ学生さん方々は学習の成果が上がることと期待をしております。また、九段の町が二松學舍大学のキャンバスで満ちることを願っております。

さて、話は代わりますが、日本に伝わった最初の書物は一体なんであったのでしょうか。『古事記』によると応神天皇の時代百済から渡来した王仁によって『千字文』と『論語』が伝えられたという。聖徳太子が制定した「十七条憲法」の第一条「和をもって貴しとなす」も『論語』学而篇の「礼の用は和をもって貴しとなす」がもとになっているという。こうして伝来以来論語は、官僚の必読の書物となっていたわけですが、仏教の伝来後、日本の思想の中心は仏教に代わっていきました。しかし江戸時代になって朱子学の林羅山が徳川家康の侍講（先生）になって幕府公認の中心思想になりました。明治維新になって西洋学問の受け入れが盛んになり、儒学は隅に追いやられましたが、教育勅語の中に孝行の思想として残っておりました。敗戦後は教育制度の改革で、一層西洋思想の受け入れが激増して、東洋思想は衰弱しました。しかし、平成の現代になって、また東洋思想が見直されてきているのではないかと感じる事柄も少し目にするようになりました。東洋思想の殿堂・論語の学校・二松學舍が益々さかえることをご祈念申し上げて挨拶とさせていただきます。

（『長野県支部報』第26号）

キャリアセンターより

大学生の就職活動については平成27年度から企業による採用選考は、8月1日から解禁となるなど、大幅に日程が変更となりました。今年の就職活動についての状況等を紹介します。

まず、採用選考活動については、表向きは8月からとなっておりますが現実的には年度当初から採用選考活動を進めてきた企業も多数あり、本学の学生も前期中から就職活動に取り組んできており、夏休み前に内定を得ていた学生も少なからずいます。これは、今回の日程変更は日本経済団体連合会（経団連）が策定した指針によるものであり、経団連に加盟していない企業や中堅・中小企業、又は外資系企業等は年度の初めから採用選考は行ってきたためです。8月を迎え当該指針を順守してきた企業（主に経団連加盟の企業や大手企業と呼ばれる企業群）がいよいよ採用選考活動を開始しました。

従来の日程では、年度の初めにいわゆる大手企業が採用選考を行い、それらが概ね、落ち着いた頃（大体6月～7月）に中堅・中小企業が採用活動を行う、という流れでした。従って学生の動き方も、まず大手企業を受験し、その後に中堅・中小企業に目を向けるというものでした。これが、今年の就職活動では、中堅・中小企業が先行し、その後に大手企業が動き出すという、従来とは全く逆の流れとなりました。そのため早めに内々定を出していた企業でも、辞退者が多く出る、または内々定を出したものの入社承諾を保留とする学生が多く出る等の現象が多くみられ、企業側にとってはなかなか内定者を確保できない、採用予定者を充足できないという状況であるとのことを、伺っております。一方、学生の側にたってみると、このような流れの結果、早期に内定を得ていた学生も就職活動を継続するという学生も、少なからずおり、結果的には就職活動自体が長期化してしまっている、ともいえます。

このように新しい指針のもとにはじまった平成27年度の就職活動は、企業側、学生側いずれにとっても、従来にはない問題が発生しております。しかしながら今年度は導入初年度であるため、ここで判明した課題等につきましては次年度以降の支援、指導に役立てていきたいと考えております。

さて、このような状況のなか、夏休みも終わり4年次生にとっては卒業まで残すところ半年となりました。様々な事情によりまだ、進路決定に至っていない学生につきましては、引き続き、あらゆる支援活動を行って参り、一人でも多くの学生が卒業までに進路をきめられるよう尽力していくところですが、以下4年次生対象の支援活動ほか、今後の予定について、ご紹介いたします。

「3年次生対象　個人面談」（10月1日～開催）

毎年3年次生全員を対象に、個人面談を実施しています。この面談で、現時点での進路希望を確認しあい、今後の就職活動や、各種の採用試験に向けた準備に取り掛かるよう指導していきます。

「4年次生対象　就職力アップ講座」（10月19日開催）

就職活動を継続している4年次生を対象に、これまでの就職活動の振り返りと、自己分析の見直し、そこから発展して、さらに説得力のある自己PRを考える講座です。ここ数年実施してきた講座ですが、この講座を受講した直後に内定に結びついた学生も多くみられます。

「4年次生対象　学内合同企業説明会」（10月8日～21日開催）

就職活動を継続している4年次生を対象に、採用活動を継続している企業を招聘し、学内で合同企業説明会を開催します。

「インターンシップ成果報告会」（10月26日開催）

今年も多くの学生が、夏期休業中にインターンシップに参加してきました。本学では企業等と協定を取り交わし、夏期休業中に3年次生、春期休業に1、2年次生をインターンシップに派遣しております。今回は、夏期休業中にインターンシップに参加した3年次生に、インターンシップで学んだ成果等を報告・発表してもらいます。この報告会にはインターンシップ学生を受け入れていただいた企業の人事担当者を招聘して、その企業の方々の前で、学生に報告・発表をさせています。

このほか、秋から年度末にかけて、4年次生に向けては引き続いての就職支援、下級生には各種の検定試験や、研究会等を開催し学生の就職支援をしています。

「全学年対象　ニュース時事能力検定」（11月14日開催）

企業への就職に限らず、時事について理解を深めることは重要なことです。この検定は全学年を対象としておりますが、下級生のうちから時事、社会について関心を持ってもらうきっかけとなるよう、多くの学生に受検してもらいたいと考えております。

企業研究セミナー（学内合同企業説明会）

教職支援センターから

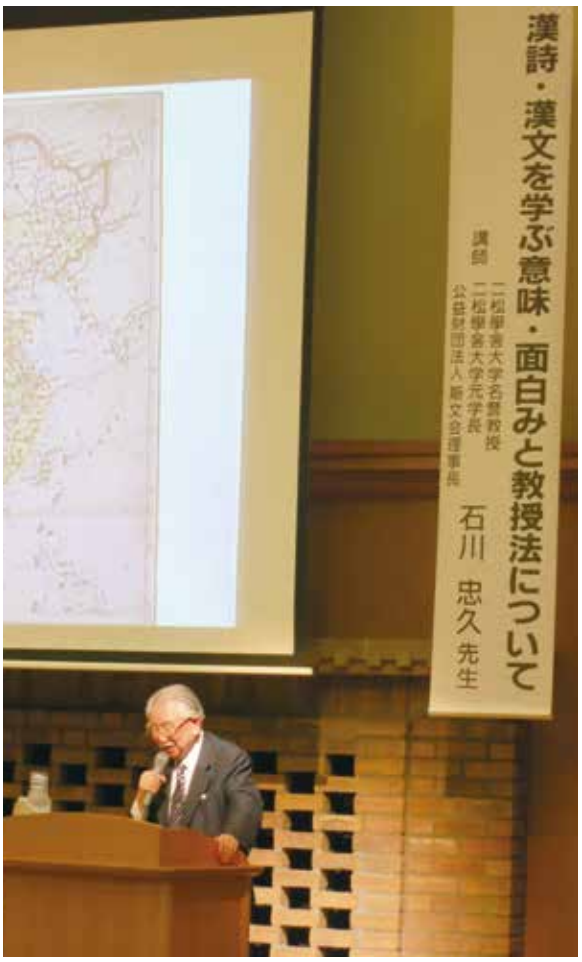
「二松學舍大学主催国語（漢詩・漢文）講習会」「二松學舍大学茨城県教員の会」設立総会を水戸市で開催

育に協力する」ことを目的に昨年度から本学が力を入れている事業で、今年度から教職支援センター担当している。

午後1時、同ホテル「紫峰の間」で「講習会」を開会。はじめに、主催者を代表して菅原淳子学長が挨拶。続いて後援者代表で茨城県教育庁石井純一副参事の挨拶があり、講習に入った。

演壇中央に石川忠久名誉教授が登壇。背後に4メートル四方ほどの大きなスクリーンが設置され、中国大陸の地図が拡大投影された。

石川名誉教授は、スクリーンに映し出された中国大陸を指しながら、漢詩が生まれた風土や時代背景、歴史を語り、続いて配布資料により漢詩一編一編の味わいや作者の人物像、其々の逸話などに触れ、会場の参加者等を魅了した。（受講者は81名）



水戸市で行われた国語講習会

【二松學舍大学主催国語（漢詩・漢文）講習会】

本年8月21日（金）、「ホテルレイクビュー水戸」（茨城県水戸市宮町1・6・1）で、「二松學舍大学主催国語（漢詩・漢文）講習会」（講師に石川忠久本学元学長・名誉教授、題目は「漢詩を読む意味・面白みと教授法」）を開催した。

この講習会は、「茨城県の国語教

【二松學舍大学茨城県教員の会設立総会】

午後3時から同ホテル「常盤の間」で「二松學舍大学茨城県教員の会設立総会」が開かれた。

前年度、同会場で開かれた「国語講習会」後の「卒業生の集い」で、県内の卒業生教員の連携強化と組織化が提案され、「二松學舍大学茨城県教員の会」設立計画が本格化した。

本年3月、準備委員会（沼田俊明〈文40〉会長はじめ8名の準備委員で構成）が発足し、「教員の会」設立に向けて準備が進められた。

設立総会は、沼田俊明会長の司会・進行で開会。「会の設立」「役員の選出」「規約の制定」等設立総会の議題がそれぞれ満場一致で承認された。引き続き懇親会が開催された。「教員の会」初代会長に選出された青山幸男氏（文49）の挨拶、役員紹介等が行われ、続いて、菅原淳子学長、茨城県教育庁石井純一副参事等から祝辞が述べられた。松苓会廣田克己会長の音頭で乾杯の後歓談に移った。歓談の中で、出席した現役学生の紹介などもあり、和気藹々とした中に新鮮な雰囲気の懇親会だった。（県内教員参加者43名）

茨城県教員の会設立総会

◆平成27年度第21回二松學舍大学教育研究大会」を開催◆

本年10月11日（日）、九段校舎で「第21回二松學舍大学教育研究大会」が開催される。

第1部は、関山邦宏氏（和洋女子大学子ども発達学類教授・副学長）を講師に招き「一人ひとりを育てる教育―幕末期の寺子屋教育に学ぶ―」の講演を予定。第2部は、小学校・中学校・高等学校3校種に分かれて現職OB教員の提案をもとに討議をする分科会を予定している。

第3部は参加者による懇親会を予定している。

松苓会の歩み(5)

戦時下の専門学校

今年は戦後70年。戦時下の二松學舍専門学校の様子を『松苓』第9号（昭和17年8月発行）から、「母校の近況」を掲載する。

遠い外地に又友邦に、或は内地の各処に日々活躍して居られる松門の諸君が、折に触れて思ひ出されるかもしれないこの母校。その母校がこのめまぐるしい時代に、どのやうな激しい影響を受けつつあるか。それをお知らせすることも亦松苓誌の任務であらう。

まづ石段を上りながら、校門を仰ぎ見ると、鉄の扉がなくなつてゐる。これは極く最近所謂鉄回収で徴用されたのである。そして更によくみると、左の柱に「興南学院南方語学校」なる看板がかかつてゐることに気づかれるであらう。或人は私に「二松学舎は大分時局向きの夜学を始めましたね」といつた。別にさういふわけではなく、ただ夜間だけ校舎を貸してゐるのである。

或は玄関の処には防空用資材が貧弱ながら、整理陳列してあるのなども時代の影響の一つとして数え上げられるであらう。

それらの極く外形的なことはともかくとしても、もつと内容的なことについて筆をすすめよう。その第一は修学年限繰上のことである。

大東亜戦争勃発以来、国の情勢が青年若人に従来の二倍三倍の活動を要求してゐる。それがため修業年限の短縮が実現し、本年度に至つて六ヶ月の短縮となつた。母校も当然その規定をうけて、去る三月に第十二回卒業生五十六名を送り、又この九月には第十三回卒業生として八十六名を社会へ送ることとなつてゐる。それだけ学校も忙しいわけであるが、当の学生諸君も三年間で終了する課業を二年半で仕上げようといふのであるから、余程の緊張を以て臨まなくてはならぬ。

（中略）

次に第十二回の卒業生（五十六名）の状況を名簿によつてみると、入営又は応召　三十一　中等学校教員　八　官庁又は会社　九　上級学校在学　五　不明　三となる。入営又は応召が第一位を占めるのはなんといつても時局を示すものである。

又一方入学の状況を見ると、去年の「松苓」（第八号）に今氏が第一回以来の正確な統計を示して居られるが、昭和十六年に於いて入学者百五十名となつてゐて、創立以来の最高位を示してゐる。本年もやはり入学許可は百五十数名で、昨年と同様であるが、入学志願者に至つては千人を突破するという状態であつた。それは母校の試験日が他校に比して遅かつたこと。無試験入学の制度があることなどが影響してかくも多数になつたのであらう。試験当日は全教室とも満員であつて、かやうなことは創立以来未曾有の活況といふべきであつた。それだけの多数の受験者の中からえりにえつて百五十名を入学させた為か本年の一年生中にはかなり熱心な学生が多く、たのもしい限りである。（以下略。）

文中「去る三月に第十二回卒業生五十六名を送り」とあるが、実際は第12回生は昭和16年12月に3か月繰上げ卒業している。第13回生は昭和17年9月に卒業。筆者は「尾崎生」と署名された専門学校第1回卒の尾崎憲三教授。当時、国語学・国文法を担当されていた。

昭和18年の松苓会

次に、『松苓』第10号から、昭和18年4月29日に開催された松苓会総会記事を載せる。

毎年五月下旬に開催される松苓総会は本年は山田先生送別の会をも兼ねて去る四月二十九日夕麹町寶亭に開催された。会する者二十四名。会は先づ国民儀礼に開かれ、次に会務報告、山田先生御引退の辞があり、終つて満場の拍手裡に新会長として那智先生を推し、山田先生を名誉会長に推した。那智先生会長になられると共に副会長の欠員を生じたので、これが後任を塩田先生にお願ひする旨会長より御指名あり、これまた満場拍手裡に成立、更に従来副会長は一名であつたのを会則を変更し二名とし、その一名は松苓会正会員を以てあてることとし、石川梅次郎君を会長指名によつて決定した。

次には会費変更の件を附議し提案理由を尾崎これを説明し、現行の会費を以てしては松苓会の運転は実際上困難なることを一同認め、然らばどの程度の引上げが

那智校長題字の『松苓』第10号

適当なりやにつき意見の交換があり、結局別項に述べたやうなことに決定した。

右の三件についての会則の字句変更は、幹事一任として、議事を終了、会食に入り、次々に立つて自己紹介及山田先生送別の辞が述べられた。

この折の会費変更は、これまでの6円を20円とし、会則を「第十三条　会費ハ金弐拾円トシ、全額ヲ納入シタルモノハ終身会員トス。納入方法ハ卒業年度ニ於テ全額ヲ納入スルモノトス」に改正した。

『松苓』第10号は杉野茂三重県元支部長（14回卒）から寄贈を受けた。第10号の発見により、『松苓会報』第50号掲載の那智佐伝「松苓に題する辞」を確認できた（『松苓』第10号では「会長就任にあたりて」となっている）。また会則改正の経緯や塩田良平、石川梅次郎が副会長に就任した時期が判明した。

戦後の混乱期

昭和24年度の『松苓会名簿』発行以降、松苓会に関する資料はほとんど見つかっていない。次に掲げる2点の資料から活動が休止状態であったことがわかる。

大学が収蔵する舎史資料の中に「松苓会通知及び漢詩」と記されたものがある。松苓会開催通知文の裏面に那智佐伝学長が漢詩をメモ書きしたもの。発信年が記されていないが、文面から昭和29年6月27日の月例会のものと推測される。

拝啓　夏初幽草の候愈々御精適の御事とお喜び申上げます。扨月例の松苓会を来る六月二十七日（日曜）午後一時より開催致しますが、この度の会は那智先生建碑祝賀のその後の御報なども致し度存じますので、先生を囲み融々の楽しみをもつ関東地区大会とすることに致しましたから、是非奮って御出席下さい。

今度の会は有志の寄附で若干の飲ものもありますから準備の都合上、折返し御返事下さい。那智先生頌徳碑の醵金は今月で〆切ります。

次に、昭和29年8月22日の松苓会総会開催案内を兼ねた会報（B4ガリ版刷り1枚もの）から、石川梅次郎会長名の挨拶文、及び開催案内文を掲げる。

総会開催案内を兼ねた会報

夏至も過ぎ緑の樹々も美しくなりました。愈々御健勝の御事と存じます。その後松苓会も一向に御連絡できずにおりましたが、今年の正月から東京近傍の諸君がより集って月一回の例会を開いて来ました。（通）信費などの困難がありましたが、この宣伝の封筒を借りて消息を盛ることができましたから、全国的にささやかな消息をお送りします。今夏は是非名簿を作ってお手許にお送りしたいと、息込んでいます。母校も、那智学長のもとに著々と地歩を築きつつありますから、御休神下さい。と申しましても戦後のいたでがまだ完全には癒えず、大いに同窓諸兄の協力を必要としますし、また同窓も大いに団結しなければならないのが、目下の時期です。雄大な構想をもった松苓会を築くべく、御参集下さい。御上京の折は消息をお洩し下さい。こちらでもその御連絡を作りたいと思っています。では、若干消息のあった諸君の近況を御報告いたします。

松苓会長　石川梅次郎

八月二十二日（日）一一〇〇より、母校に於て本年度総会を開きますから、奮って御出席下さい。

各支部の代表者（支部のないところではその地区の代表者）は必ず御出席願います。会則、支部設置その他重要な問題に就て討議して戴きます。

後段開催通知文中の「その他重要な問題に就て討議」の「重要な」に傍点が付いているのは、学内の混乱についての討議を示すか。丁度この頃は当時の松浦理事長の法人運営をめぐり学内が騒然としている。

『茯苓』第10号（平成20年8月発行）は第21回（新制大学第1回生）から第26回生までの、戦後の混乱期に学生時代を過ごした卒業生の回想録である。その中に昭和28年4月に入学した25回生の横田睦夫松苓会元幹事長の「二松学舎学園民主化闘争小史」があり、その間の経緯をよく纏めている。貴重な記録である。

支部活動

昭和24年12月現在の『松苓会名簿』（昭和25年1月発行）に新潟県・長野県・群馬県・近畿・岡山県・福岡県・熊本県・鹿児島県の支部・支部長名が記載されている。岡山県支部と近畿支部については、支部創設時の状況がその後の記録で判明する。岡山県支部（三同会）は、昭和23年4月3日山田準元校長宅で支部会を、さらに8月、塩田校長を迎えて支部会を開催。以後毎年開催

されたことが、『二松学舎大学新聞』107号に掲載されている。ここでは同じく昭和23年に発足した近畿支部について記す。

近畿支部発足の経緯は、末吉榮三顧問が度々『松苓会報』に書かれており、また同支部は10年毎に周年記念『会誌』を発行し、その中にも記録している。

手元に『二松学舎松苓会近畿支部報』第1号（昭和29年1月発行。B4ガリ版刷り2枚）、『松苓会近畿支部会員名簿』第3号（昭和28年12月）がある。本年（平成27年）5月佐佐木鍾三郎顧問を自宅訪問したおり、先生所蔵の古い資料の中から見つけ、大学が収蔵することとなったものである。今回はこの資料をもとに記す。

『近畿支部報』第1号には、昭和28年12月26日に梅田多幸梅で支部総会を開催したこと、出席者名が記され、続いて「母校近況報告」として次の記事がある。

この席にお招き致すべく母校関係者を那智学長に御依頼致しましたのですが都合によってその栄を得ずして那智学長より文書をもって母校近況の御しらせをうけ、それを井戸副会長によって報告されました。

ここにそれを転載いたしましたので御覧下さい。尚名簿に展望二松学舎大学という表題のもとに、出来るだけ手近な資料をもとにして掲げておきましたので併せて御覧ねがいたく思います。

『近畿支部報』第1号
『近畿支部会員名簿』第3号

那智学長よりの文書

本月二十二日発の速達御辱く只今拝接仕り候。

松苓会近畿支部各位愈々益々御雄健に渉られ賀し奉り候。明後廿六日（土）午後三時半を以て総会御開催の由本学舎より誰か拝参致すべく御案内下され有難く御承仕るべく候処目下休業中にて火急のこと故連絡とり難く候に付やむ無く返書忽方申上候。それも御住地宛差出候てはとても達し易からずと存じ候而総会場まで速達便拝復に及び申候御亮承下され度願い上候。

本大学現況を略答申上候。本年四月二十七日を以て漸く二松学舎大学に復帰の認可を得申候。国語漢文の教授助教授講師約四十名（高等学校教諭は別）熱心に御教授下され為に五百有余名（高等学校を含めて）の学生を引請毎月遅配なく各先生俸給支払従来の遅配は尽く差上げ前年度の負債も徐々に弁済致し居り去る九月には校舎（四教室余）新築も相成り経営も順境に向い居り候且教室設備等猶不完全の故に今回第二部夜間学部設置の許可を得ざるは遺憾に存じ候是を以て後援会を組織大方の御援助を請度既に発企人を定め実行委員運動に取り掛り居り候。

将来の希望は先師中洲先生の遺志を継続拡張国語漢文大学としては卓越比類なく仁愛正義弘毅の三大主意を以て其間邦家有為の人材を造就致し追て大学院を設置致申までもなく斯学の大本山と相成る様一同決心まかり居る次第に御座候。

貴支部各位是まで終始御配慮御尽心容易ならず候上猶更に御費神なられ下され候様偏に希上げ奉り候。

右取急ぎ拝復此の如くに御座候。不宣

十二月二十四日　夜

那智佐典

那智学長文書に「本年四月二十七日を以て漸く二松学舎大学に復帰の認可を得申候」とある。東京文科大学から二松學舎大学に名称変更したことを示すもの。『二松學舎九十年史』『二松學舎百年史』とも名称変更の日付を3月10日の認可申請書提出日としているが、正式認可日は4月27日か。

当時大学は、夜間学部の設置を計画したことがわかる。文中「毎月遅配なく各先生俸給支払従来の遅配は尽く差上げ・・・・経営も順境に向い居り候」に当時の母校の窮状を垣間見る思いがする。『百年史』等によると事態は必ずしも好転してはいなかったようだ。

『近畿支部名簿』3号の「近畿支部彙報」欄に「昭和二十三年北野高校の一堂に塩田良平先生を迎えての集いに再発足の声があがり、翌年梅田の一角で盛大なる発会式をあげて以来、幹事諸氏の御努力によつて名簿の作成も出来、昭和二十六年には渡辺先生を、二十七年度に塩田先生を迎えて旧懐をあたため且母校との連絡、後援に、少なからざる目的の達成に進んできた」と、支部発足の経緯が纏められている。

平成7年に近畿支部は近畿連絡協議会に改組した。毎年母校から学長等関係者を招き総会を開催するなど近畿地区各支部との連携や母校支援の独自の活動を展開し現在に至っている。平成10年には近畿支部創設50周年を祝う会を、平成22年には60周年企画として新聞記念号を発行している。

（文責　小林公雄）

教員免許更新講習を終えて

二松學舍大学附属高等学校　戸井田晃尚

8月3日から7日まで、二松學舍大学で行われた教員免許更新講習に参加しました。母校で受講する講習は、認定試験の緊張感と、三十数年ぶりに味わう学生気分に包まれた時間となりました。

初日は教育の最新事情①として、午前中に芝田周一教授より教育法規や学習指導要領に関連した事項、また教育改革等について、講座が設定されていました。午後は榎本善紀教授による、現代社会に対応した教育の在り方など。共に新たな視点から、日頃の教育活動を見直す契機となりました。

二日目は午前中に改田明子教授による、発達障害のある児童生徒の学校生活と支援のあり方や社会性の発達について。午後は町田哲夫教授による保護者対応や学校に対する外部評価の導入や活用について。教育の現場が置かれている状況の把握や、問題解決のヒントに結びつく内容に富んだものでした。

三日目は生徒理解に基づく支援と指導という内容で、午前は若井田正文教授による、人間関係に対する心理学的なアプローチやセルフカウンセリングなど、実践的な手法を学ぶことができました。午後は小渕朝男教授による生活指導、キャリア教育などのあり方について。少人数のグループに分かれてのディスカッションは新鮮で、同じ立場に立つ者同士、様々な現状に触れることができました。

四日目は五井信教授、瀧田浩教授による現代文の教材と指導法でした。五井教授の「小説の言葉、詩の言葉」では、漱石や鷗外をはじめとする、文学的な文章に対する接し方を様々な角度から紹介しつつ、新しい感動を導くための手法を学ぶことができました。瀧田教授の講座では「近現代評論文」というタイトルの下、教材の構造の把握、歴史的背景の把握など論理的な文章の読解法を学ぶことができました。

最終日は「古典の教材と指導法」として、山崎正伸教授の「伊勢物語」、磯水絵教授の「徒然草」。牧角悦子教授の「漢詩」、町泉寿郎教授の「日本漢文と漢文教育」という盛りだくさんの内容でした。

学生時代にお世話になった先生方の講義を、こうした形で受講することができ、感慨深いものがありました。旧友や同僚、教え子で教職に就いている後輩など、様々な人間関係の中に確かな時間が流れている講習会でありました。（文52）

教員免許状更新講習を受講して

上野学園高等学校　望月芳哲

鬱陶しい。ただでさえの酷暑。やりきれない暑さの中、とうとう回って来た更新講習。最悪。そんな制度教員の誰もが望んでいやしないのに。

手続きの折からその憂鬱さは拭えぬまま。そしていよいよの講習当日。久々に足を踏んだ九段の地。抜けぬ憂鬱さの内向かう我が学び舎への途次、望郷の念、といっては大仰ながら、長らく通った地への懐旧の思いが沸々。せっかくだ。割り切るしかない。五日間、徹底的に学ぼう。そんな思いへ自分の内での切り替えを図る。とはいえこの暑気。自らの思いも熱に浮かされてのうわごとかのよう。なんでもいい、やるしかない。ああでもない、こうでもない、逡巡しながら辿り着いた九段三号館。そして幕を開けた五日間。

生業の教師から学生へ、立場を変えて入る教室。その新鮮さ。かすかに胸の高鳴りに似たものを感じる。内なる鬱もいずこにか。徐々に登校する受講者の面々。年輪重ねた見覚えある顔多数。その頃からだんだん自分の内の時間軸とその視界は揺らぎ出す。今、という現時ながらも、まざまざと蘇る学生時代の自分自身、教室での心象。そう、今から思えば構えず真っ直ぐ学問に向かっていた自分自身。小ずるくなった自分は、あの頃の自分に今の自らを擬すべく、その回想と感慨に浸る。見えて来る。そう、学びは喜び、学びは楽しみ。好きだったのだ、学ぶことが。純粋に。あの頃の自分の内にあったもの。重ねた月日は、着実にそうしたものを見失わせた。いや、日々の多事に見ようとも見させて来なかった。懐かしい自分自身、自分自身の内にあったもの、それに湧き起こされた感興は、始まる講義の内に、より深いものとなっていった。沈思、内省。自分の小ずるさも、もうどうでもよい。内なるものに真っすぐいよう、そして在ろう。自分自身が抽出されていくかの思い。迷うものなど何もあるまい。そして五日の時間は過ぎ行く。自らを遡行する旅の終わり。終わらない旅の、幾度目かの、始まり。

母校にての五日間。貴重かつ大切な時間であった。母校にてであったからこその、かけがえなき時間、切にそう想う。自分の愛したもの、そして、文学に真っ直ぐあろうとした自分。校舎変われど、総ては未だそこに。五日間の与えてくれたものを抱え、還る現実。背を押されるような想いに、よぎった幻視。

「行って来いよ」

ゼミ室で含羞んだ笑みを浮かべた亡き師が、我が背を押した。（文62）

松苓会創設85周年記念事業の概要

昭和６年に二松學舍専門学校松苓会として発足した本会は、来年創設85周年を迎えます。これを記念して以下の記念事業を計画しています。

（１）記念式典・祝賀会

平成28年６月12日（日）に実施します。前日に平成28年度定期総会を開催し、翌日式典等を実施。式典に合わせ講演会等を計画しています。

（２）記念誌の刊行

昭和６年の創設から平成28年までの松苓会の歩みを編年体でまとめます。また、歴代会長（氏名・在任年月等）、機関誌等の発行状況、会則の変遷、会員名簿発行状況、会員数、歴代支部長名、支部活動など、松苓会の歴史資料集・記録集の性格をもったものとします。体裁は、A4判　横書き約200ページの予定です。

（３）松苓会報（特集号）の発行

定例号（年２回発行）とは別に、特集号として編集します。内容としては、「松苓会創設85周年を迎える」の記事、本部活動・支部活動の現状、松苓会の将来について等。会報特集号編集部会で具体的な編集作業を進めています。

（３）会員名簿の正確を期するための諸活動の展開

あらゆる機会を利用して、会員情報（現住所等）を把握するための活動を展開します。さらに会員情報に関する本部機能を強化するための環境整備を図ることを目指します。

（４）顕彰事業

松苓会の発展に尽力された方への感謝状贈呈。

本年度のホームカミングデーは12月6日（日）です

大学校舎の改修工事により開催日を再変更して12月６日（日）に開催します。作品展の応募受付も行っています。松苓会本部にお問い合わせ下さい。

松苓日誌抄

平成27年
1月7日　学校法人二松学舎の新年互例会が大学13階ラウンジで開催され、神津会長ほか役員出席
2月23日　附属高校野球部選抜大会出場への協力依頼文書を役員・支部長に送付
3月14日　松苓会課外活動助成費授与式
第４回常任幹事会開催。終了後松苓会創設85周年記念事業実行委員会開催
16日　平成26年度学位記授与式が中野サンプラザで挙行され、神津会長参列し祝辞を述べる。
松苓会から「ご卒業おめでとうございます」の横断幕を九段校舎１号館入口に掲出
25日　法人との連絡協議会。法人側から渡辺学長、田畑学務局長、小町事務局長出席。松苓会本部からは神津会長以下三役出席
4月1日　大学新学長に菅原淳子教授（国際政治経済学部）就任
4月2日　国際政治経済学部第１回卒松本拓氏、同期会開催相談に来室
4月6日　平成27年度入学式が中野サンプラザで行われ、神津会長参列。入学者数文学部481人、国際政治経済学部216人
22日　椎木・磯両監事による平成26年度会計監査が行われる。本部の大地・廣田副会長、小林幹事長が立会う。
4月　附属高校野球部選抜大会出場支援への礼状及び報告書が神津会長あて届く。松苓会関係からの寄附は250件295万５千円。松苓会本部からは30万円寄附。（昨年夏の大会では本部から50万円、卒業生が１００５人応募、合わせて１０７４万８千円の寄附金が集まりました。）６月２日役員・支部長に報告書送付
5月16日　常任幹事会開催。終了後85周年記念事業実行委員会開催
5月25日　キャリアセンターから、自衛隊陸将補　堀井泰蔵氏（文55回卒）が昨年12月第35代古河駐屯地司令に着任したとの情報が寄せられる。
6月1日　法人との連絡協議会。法人側から菅原新学長他６名出席。本部から神津会長以下三役出席。
13日　幹事会、定期総会開催
17日　新執行部の三役会議を開催。新役員人事（常任幹事・幹事）について協議
6月20日　杉野茂氏（14回卒）から85周年記念事業『記念誌』資料として『松苓』第10号、『二松』第26号他が寄贈される。
26日　ホームカミングデー実行委員会開催
7月25日　新体制での最初の常任幹事会を開催
6月18日　新海直氏（文59回）上京を機会に松苓会室来訪。愛知県支部総会開催の報告あり。
8月3日　本年度の教員免許状更新講習が大学で実施される。本学卒業生45名が母校に帰り受講（受講者総数93名）
8月9日　千葉県柏市議会選挙で助川忠弘氏（政３）当選。４月の統一選では沼津市議に江本浩二氏（文51）、高崎市議選に林恒徳氏（文60）が当選。地方議会でのますますの活躍を祈る。
8月21日　卒業生の茨城県教員の会が組織され、その結成式に廣田会長出席

「中国学入門」の紹介

二松學舎大学文学部中国文学科の先生方が編集した、「中国学入門　中国古典を学ぶための13章」が本年4月に勉誠出版から発行されました。定価は税抜きで千六百円です。

「ようこそ　文化の宝庫へ」と銘打って、中国の文学・歴史・思想・芸術などの文化を研究する「中国学」。

歴史をひもとけば分かるように、私たちの精神や思想の背景には、広く中国や朝鮮半島など東アジアからの影響があります。中国学を学ぶことは、自分自身を知ることにつながるだろうと言っています。古代から二〇世紀にいたる中国文化の展開や日本における影響を概観し、その豊饒な世界を分かりやすく紹介しています。

二松學舎大学を卒業した松苓会員にとって、仕事にも役立つとともに教養も豊かになり、今後の生き方に大きな示唆を与えてくれる一冊です。ぜひご一読ください。

寄贈図書

平成26年9月以降の寄贈図書は、次のとおりです。

●日本書紀創作神話
・神武天皇編上（三千円）
・神武天皇編中（三千円）
・神武天皇編下（三千円）

●岡山言葉全国比較九（二千円）
岸元史明著　国文学研究所

平成13年度以前の卒業生の方へ
終身会費納入のお願い

松苓会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われております。終身会費1万円を納入していただくと終身会員になり、会報の毎回発送やホームカミングデーの案内が毎年送られるようになります。昨年度は、78名の方が手続きされました。終身会員の手続きをとられるようよろしくお願いいたします。

寄付金のお願い

松苓会では、会の発展のために一昨年度から会員の皆様に寄付金のお願いをしてきました。昨年度は、約65万円の寄付金が集まりました。

松苓会の事業推進と財源確保のために、一口一千円で寄付金を募ります。ご協力よろしくお願いいたします。

訃報

中田勝名誉教授

平成27年3月11日ご逝去されました。享年89歳

中田名誉教授は、昭和20年9月に専門学校を繰上げ卒業（第16回）、昭和29年3月に大学を再卒業（第22回）され、二松學舎大学附属高等学校に教諭として着任されました。

その後、二松學舎大学助教授、教授に就任。学生課長、教務部長などの要職を務められ、母校の発展にご尽力されました。

平成5年には、陽明学研究所長に就任されました。また、学校法人の役員として、理事や評議員を歴任し、平成8年3月定年退職され、4月に名誉教授の称号を授与されました。

松苓会では、平成8年3月に常任幹事を退任するまで本部役員としてご尽力いただきました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

表紙写真

二松學舎大学４号館の上階からは、靖國神社の境内や社殿を眼下に見下ろすことができます。晩秋の黄色くなった銀杏並木や、春の桜の時期は、違った視点から景色を楽しむことができます。一度お寄りください。

編集後記

平成27年度の定期総会で、会長以下新たな体制に変わりました。85周年記念事業も、記念誌や会報特集号の発行、また、記念式典の計画も進んでいます。12月6日のホームカミングデーも、計画が整いつつあります。松苓会報も、これまでの伝統を守りつつ、少しずつ変えて行ければと思っています。今回、新しく、北から南から、教員免許更新講習を受けて、松苓日誌抄などが加わりました。いろいろと、ご意見やご提案など賜れば幸いです。

二松學舎松苓会報 No.53

創刊　昭和62年12月1日
発行　平成27年10月1日
編集　二松學舎松苓会
住所　〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
電話　03-3261-7408
振替口座　00180-5-160343（郵便局払込取扱票）
印刷　㈱サンセイ

二松學舎大学（松苓会）ホームページ　www.nishogakusha-u.ac.jp
松苓会 E-mail　shourei@nishogakusha-u.ac.jp